

②授業の構成案

テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<p>1 限目 テーマ：バングラデシュとはどのようなところ？ ねらい：導入のために映像や数字でバングラデシュの現状を紹介する。</p>	<p>(1) バングラデシュの映像から地形や洪水、サイクロン等の自然環境や災害などを学ぶ。 (2) ストリートチルドレンや妊産婦・乳児死亡率、イスラム世界の男尊女卑の社会背景について学ぶ。</p>	<p>(1)バングラデシュをまとめたCD-R (2) 地図帳 (3) バングラデシュ・ダッカ市内の地図 (4)バングラデシュの統計データ</p>
<p>2 限目 テーマ：バングラデシュが抱える問題点を考えよう。 ねらい：言語・宗教・民族問題や環境・貧困など、日本では考えにくい問題点を取り上げ、世界の多様性を考える。</p>	<p>(1) 民族問題・宗教問題によるインドやパキスタンとの対立など、バングラデシュの様々な問題点について考える。 (2) 最貧困層が利用するマイクロクレジットとは何かを考える。 (3) 日本がJICAやNGO、その他諸団体を通して、バングラデシュの人々の支援を行っていることを学び、誰もがその活動に参加する機会があることを理解する。</p>	<p>(1)バングラデシュをまとめたCD-R (2) 地図帳 (3) バングラデシュの100タカ紙幣など (日本の援助でできたジョムナ橋の絵)</p>
<p>3 限目 テーマ：しげのぶうのせかいはおもしろい！ ねらい：映像や自分が経験した旅行中のエピソードなどを通して世界の広さ、面白さ、そして地理を学ぶことの楽しさ、意義を理解させる。</p>	<p>(1) 映像の中の自分と同様に右手だけで、米を食べてみる。左手に対する考え方の違いや米の違いが食べ方、食文化の違いにつながっていることなどを学ぶ。 (2) 服装や住居、食事など世界の民族・文化の多様性について学ぶとともに、人間は生活環境に適応した生活を送り、それぞれの文化が作りあげられていることを理解する。</p>	<p>(1) 世界の国々の映像をまとめたCD-R (2) 地図帳 (3) 日本米とタイ米 (4) 各国から持ち帰った地図や紙幣、写真などの資料</p>

(2) 授業実践の詳細

3年生の文系地理選択者11名のクラスであるため、特にグループなどに分けて、一斉授業の対話形式で展開した。

【1限目】 「バングラデシュとはどのようなところ？」

① バングラデシュの位置や人口、宗教など、授業ですでに学習した内容について地図帳で確認する。残念ながら忘れてしまった生徒も多かった。

↓

- ・ 自作の「平成19年度 教師海外研修 バングラデシュ」の映像を見て、洪水やサイクロンによる災害やイスラム教の人々の生活、ストリートチルドレンや最貧困層の女性の暮らしなどの様子から、バングラデシュの現状を伝える。

↓

② 生徒それぞれが映像を見て感じたことを自由に述べる。

<生徒の感想例>

- ・ 貧しい人が多くてかわいそう。
- ・ 人の多さに驚いた。さすが人口密度の高い国だと思った。
- ・ ストリートチルドレンの子供たちに対する教育などが行われていることが意外だった。
- ・ ストリートチルドレンの様子を見ると笑顔の子供たちが多く、あまりかわいそうという感じがしない。 など多数

↓

③ 日本とバングラデシュを数字で比較する。

- ・ 面積、人口、人口密度、平均寿命、識字率、妊産婦・乳児死亡率や一人当たりGNI（国民総所得）など。
- ・ 数字で見るとバングラデシュは貧困に悩む発展途上国であることがわかる。
- ・ バングラデシュやダッカ市内の地図から低平で川が多く、洪水が起こりやすい地形であることを確認する。
- ・ 女性の立場の弱さがイスラム文化に由来することなどについて考える。

↓

④ 研修出発前に生徒からとったバングラデシュに関するアンケート結果と、この映像を見た後でイメージが変わった点、変わらない点の違いを比較、確認する。

- ・ 全体的に最貧国バングラデシュというイメージは変わらない生徒が多かった。(次時につなぐための、こちらのねらい通りである。)
- ・ 次時では、洪水の社会的背景や貧困から抜け出すためのマイクロクレジットとは何かということについて考える。

【2 限目】 「バングラデシュが抱える問題点を考えよう。」

① 洪水の社会的背景について考える。

- ・ 洪水は夏のモンスーンによってもたらされる雨季の河川の増水、バングラデシュの低平な国土などの自然的要因についてすでに学んできた。その他にも社会的背景として、インドとの民族的・宗教的対立が存在することを説明する。

↓

- ・ バングラデシュの周囲のほとんどはインドに囲まれていることを地図帳で確認する。ガンジス川やブラマプトラ川の中・上流域のインドでは、雨季になると自国の洪水を防ぐためにダムの水門を開ける。その結果、下流のバングラデシュで洪水となる。逆に乾季になるとインドでは水門を閉じて水を確保するため、バングラデシュでは渇水となる。かつて「水の国」と呼ばれたこの国が、現在では水に悩まされているのが現状であることを話した。
- ・ また、バングラデシュはかつて東パキスタンと呼ばれ、現在のパキスタン（当時の西パキスタン）との間で公用語をめくり戦争をして、独立を勝ち取った経緯も説明した。
- ・ つねに南アジアとしてまとめられているインド・パキスタン・バングラデシュだが、こうした民族・宗教・領土（インドとパキスタンが係争するカシミール地方）などの問題が複雑に絡み、相互の関係は良くないことも大使館で聞いた話として生徒に伝えた。

↓

- ・ 生徒は、宗教・民族・領土問題について学習する分野があるが、教科書には載っていない面白い話だったという感想を書いていた。

↓

② 最貧困層の人々が利用する「マイクロクレジット」とは何か。

- ・ マイクロクレジット（少額融資）とは、日本円で数千円の融資によって貧困層の特に女性が救われることを説明した。
- ・ その理由を生徒に考えさせるが、イスラム教の女性の立場が弱いということから先までは考えを深められなかった。

↓

・ マイクロクレジットの説明

バングラデシュ人のムハマド＝ユヌス氏によって考案されたもので、グラミン銀行がそれを運営していたこと。

（ユヌス氏は、この功績によりノーベル平和賞を受賞したこと）
無担保で、貧困に苦しむ女性を中心に少額の融資を行ったこと。
貧しいにもかかわらず、返済率は98%であること。

現在はNGO団体による独自のマイクロクレジットが行われるようになり、返済は毎週決められた日時に、女性たちの住む集落（バ

り)まで行員が回収に来るだけでなく、洪水時の対策など生きていく上で必要な教育をしていくこと。(イスラム女性は他の男性との接触を避けるため、バリから外に出ることができない。ゆえに、教育を受けられず女性の識字率が低い。)



元金と低利子を合わせた返済金のほか
に、現在では貯蓄もできるようになった人もいること。

借りたお金で鶏や子牛を買い、卵や育てた牛を売り、差額を手にする人、リキシャ(三輪自転車のタクシー)を買って夫や息子に稼いでもらう人、手先が器用であれば自分で帽子や椅子などの民芸品を編んで販売する人など、それぞれが生活の糧としてマイクロクレジットを活用して貧困から脱却する人が現れていること。



- ・ 彼女たちにとってマイクロクレジットは、何をもたらしたのか考えてみる。

<生徒の考え>

- ・ 生きるために必要最低限のお金を手に入れた。
- ・ リキシャなどを購入して、家族が職に就くことができた。
- ・ 家族の生活費を調達することができた。

など、経済的な生活の改善に関する答えが多数だった。



- ・ 経済的な改善・向上にとどまらず、女性の立場がどうなったのか考えを深めさせる。

<生徒の考え>

- ・ 立場の弱かった女性が、資金を調達できるようになって次第に地位が向上してきた。
- ・ 資金調達ができる女性は、一家の大黒柱のようになった。

など、女性が尊重されるようになったという意見が出る。



- ・ バングラデシュの女性は今もなお「ダウリ」と呼ばれる結婚の際の持参金制度が残っている。女性がどれだけの持参金を持ってきたかによって、その後の家族としての扱いが変わるという。当然貧しい女性は少額の持参金しか準備できず、夫やその家族から暴力やひどい扱いなどを受けたり、夫に捨てられることもあるようだ。という説明から、マイクロクレジットにより女性が家族として大切に扱われるようになったということが理解できたようだ。



- ・ マイクロクレジットは女性を家族や人間として扱う契機を与えたこと。

- ・ 女性が融資を受ける際、サインをするために文字が書けるようになったり、教育を受ける機会が得られたこと。
- ・ 少額の融資であるが、彼女たちにとって生きる希望や喜びを得られたこと。

↓

- ・ 最貧困国といわれるバングラデシュで始まったマイクロクレジットの考え方は、途上国だけでなく日本などの先進国でも採用されつつある画期的なシステムであることを理解させる。
- ・ バングラデシュはここ数年間、前年比5%以上の経済成長を続けており、メキシコやベトナムなどと並んで次の経済成長国として「NEXT 11」のうちのひとつに数えられており、最貧困国から脱却する日がそう遠くないかもしれないことを伝える。

↓

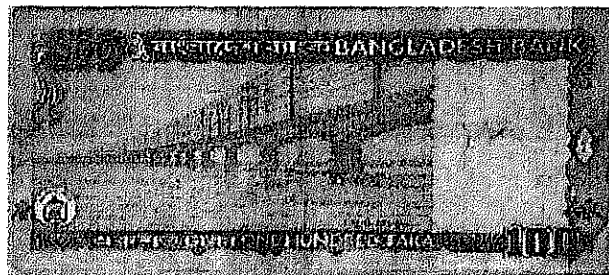
③ 日本のJICAやNGO、また世界の国々の支援がバングラデシュを支えていることを示した。

- ・ バングラデシュの100タカ紙幣には日本の援助で建設されたジョムナ橋が描かれている。この橋ができたおかげで、ジョムナ川を渡るのに2~3日かかっていた時間が、現在では約20分に大幅に短縮されたという。川で分断された国土をつなぐだけでなく、物流にも大きな影響を与えたという。

↓ ジョムナ橋



100タカ紙幣に描かれたジョムナ橋



- ・ 実際に持ち帰った100タカ紙幣を見せて、ジョムナ橋の説明をする。
- ・ その他の国々の紙幣を見せながら、紙幣に描かれるのは国の誇りや特徴、文化が描かれていることを説明する。(【3限目】でも紙幣を見せた)
 (例)・カンボジアの紙幣 牛を使った農耕の様子。
 - ・カンボジアの紙幣 女の子が輝いた目で授業を受ける様子。
 - ・アフガニスタンの紙幣 馬に乗る騎馬民族の様子。
 - ・インドの紙幣 ヒンディー語以外の地方公用語が描かれた紙幣。
 他に、バーレーン・イラク・タイ・韓国などの紙幣

↓

- ・ こうした国の海外支援団体やNGOに参加し、途上国の人々の生活の向上のために貢献する機会が数多く存在し、誰もがその活動に参加するチャンスがあること。さらに、国際的な活動だけでなく、自分の身近な

地域などで活動することもできることを伝える。



<生徒の反応>

- ・ これまで地域や国際貢献といわれても、何をしてよいのか分からなかったが、自分にも何かできることがあるのではないかと感じるようになった。
- ・ 遠い世界のことで自分には無関係だと思ったが、世界に関心を持つことが大切であるということを感じた。

など、前向きな発言が多かった。

【3限目】 「しげのぶうのせかいはおもしろい！」

① 手で米を食べてみよう！

- ・ 1限目に見た「平成19年度 教師海外研修 バングラデシュ」の映像の中に右手だけでカレーを食べる映像がある。それを見て生徒はどのように感じたか。



<生徒の反応>

- ・ 汚そう。(自分たちもおにぎりを手で食べているくせに)
- ・ 箸を使えばいいのに…。
- ・ 手で食べるのは、少し抵抗がある。

など、否定的な意見が見られる。



- ・ 実際に右手だけを使って米を食べてみよう！（左手は不浄の手で使ってはならないというルールを決める。）
- ・ 日本米とタイ米（インターネットで購入したインディカ米）を食べ比べる。（家庭科室の炊飯ジャーを二つ拝借）
- ・ タイ米の食べ方を教える。指の第一関節くらいまでつまんで、親指で口の中に押し出す。はじめはぎこちないが、すぐに上手に食べた。
- ・ 1993年の日本の大冷害で米不足になったとき、タイ米が緊急輸入されたことや、値段が安いことからタイが世界一の米の輸出国であることなど、地理的内容にも触れる。
- ・ タイ米を食べて「おいしくない」とか「臭いがする」という反応を期待していたが、実際には日本米とほとんど変わらず、結構おいしい。タイ米はおいしくないというイメージがついた経緯には様々な考え方があろうと思う。



- ・ タイ米を食べるときの米のパラパラ感、食べ終わっても手がべとつか

ないさらさら感を確認する。

- ・ タイ米は箸で食べるのは困難であることから、手で食べる文化が発達したことを理解する。一方、日本米は粘り気が強いため手で食べるのには向いていないことも理解する。
- ・ 米の違いが食文化の違いにつながっていることを理解する。
- ・ 他にも韓国では茶碗を左手に持って食べることがマナー違反など、文化の違いを具体例を挙げて説明する。

↓

② Power Point「しげのぶうのせかいはおもしろい！」(【資料編】参照)で世界の環境・民族・宗教問題を紹介し世界の多様性を理解する。

- ・ 環境問題では、地球温暖化で沈み行くモルディヴやバングラデシュのサイクロンによる高潮被害を紹介する。
- ・ 私たちの何気ない生活の中から排出される二酸化炭素が世界のどこかで罪のない人々の生活に影響を与えていることを理解させる。
- ・ バングラデシュやインドをはじめ、世界では多くの宗教が信仰され、その文化も様々である。日本のように神道・仏教・キリスト教文化などが混在し、信仰心も薄い民族は世界の中でも少数派ことを理解する。
- ・ イスラム教の五行や礼拝の時間を知らせるバングラデシュ・モルディヴのアザーンの映像、バーレーンで購入した目覚まし時計からイスラム文化を紹介する。
- ・ バーレーンの男性衣装であるディスターシャとバングラデシュの男性衣装であるポトワ、ルンギなど同じイスラム圏でも衣服が違うのは、気候と関連していること。同様に住居の材料や農牧業、食料の違いにも気候などの自然環境が関連していることを理解させる。



↓

- ・ 人間はそれぞれ生活する環境に適応した生活を送っており、その違いが文化の多様性となって現れていることを説明する。
- ・ 日本と異なる文化に対して偏見を持ったり、排除することはならないし、世界中の文化に優劣をつけることはできないことを理解させる。
- ・ 世界ではこの瞬間も文化の違いによる紛争が絶えないのが現状であるが、それを解決する手立てや何らかの行動がとれないか考えてさせる。

↓

- ・ 今回のバングラデシュ研修で帰国前日に激しい腹痛で、病院に運ばれた。病院の名前は「ヤマガターダッカ フレンドシップ ホスピタル」。かつて山形大学医学部に留学していたバングラデシュ人医師に助けられたエピソードを話すと世界との距離感が縮まったような感想も出た。

- ・ 他にも世界を旅行する中で目にしたびっくりしたこと、楽しかったこと、人々との出会いを自分のエピソードを交えて紹介した。



- ・ 最後に自作の「しげのぶうのせかいはおもしろい」の映像をみせて、世界を旅する楽しさ、そのために地理を学ぶことの意義や面白さを伝えた。



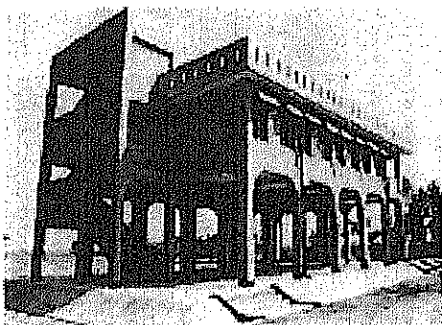
<生徒の反応>

- ・ 海外は怖いところだと思っていたが、面白そうだ。
- ・ 海外旅行をしてみたい。
- ・ 地理は今までも好きだったが、世界のことをもっと知りたくなった。
など、反応は良好だった。

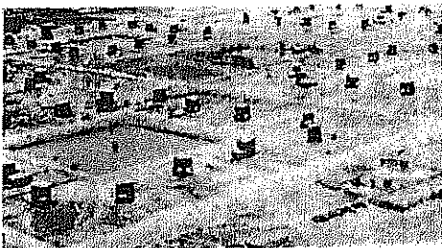
【最後に】

3時間の授業を通して、ある程度ねらいに沿った授業展開ができたと思う。しかし、一過性の授業では意味がないため、今後は地理の面白さを伝えながら世界や地域の人々のために自分で考え、行動できる人材育成を目指してさらに授業内容を精選していきたい。

【資料編】



サイクロンシェルター外部
日ごろは小学校などの施設として利用している。
(写真：日本技術開発株式会社ホームページ)



サイクロンシェルター群
サイクロンの接近時に、避難する。しかし、実際に収容できる人は一部だけで、今後もシェルター建設が必要である。



現地新聞「DAILY Star」が連日報道していた洪水に関する記事。

写真や記事を見ると、最初に被害を受けるのは高齢者や貧困層などの社会的弱者であるようだ。

しげのぶうのせかいはおもしろい!

<地球的な課題>

- 環境問題
- 民族問題
- 平和問題

など問題が山積



国際理解・異文化理解

自分(日本)と相手(外国)の違い
を理解すること・受け入れること

環境問題

モルディヴ共和国



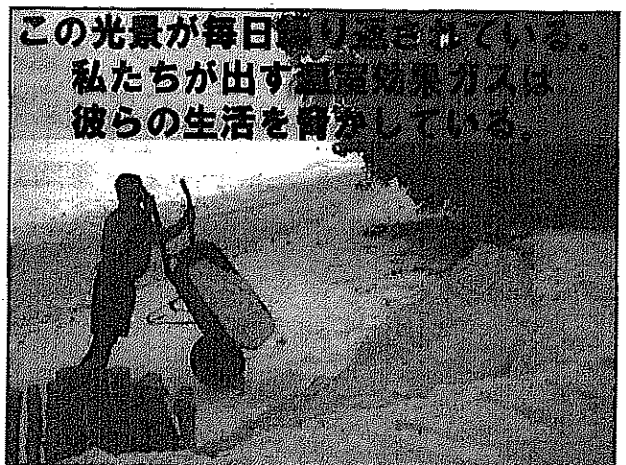
高潮時にはヤシの木の根元が侵食されている。
枕の内側にはサンゴや土を入れてヤシを守る。



干潮時には、海岸線が侵食されている。



干潮時にはホテルの従業員が
別々の場所を埋める。




この光景が毎日繰り返されている。
私たちが出す温室効果ガスは
彼らの生活を脅かしている。






釜山の釜で「サウナー」を堪能。
ツマヨウジは出口にあります。
ホテルにも歯ブラシはありません。

民族問題

朝鮮民主主義人民共和国 

歴史や世界の動きに翻弄され、
今なお、同じ朝鮮民族が分断されています。




自由の橋

朝鮮戦争停戦後、捕虜となった韓国兵士が
この橋を渡り、北朝鮮から自由の国に戻って
きたことから名前がついた。

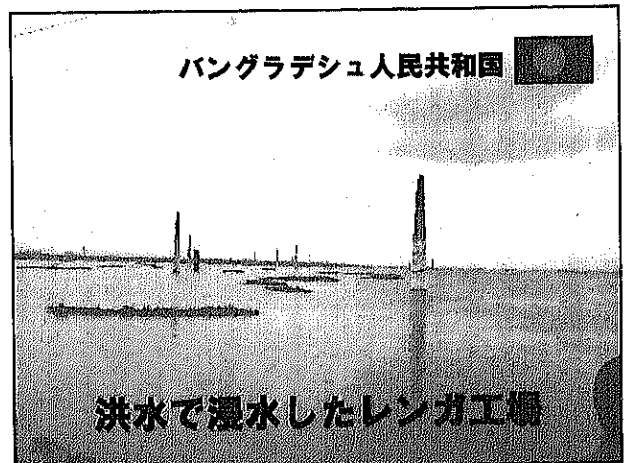


自由の橋の先には、民族統一
の願いが込められていた。



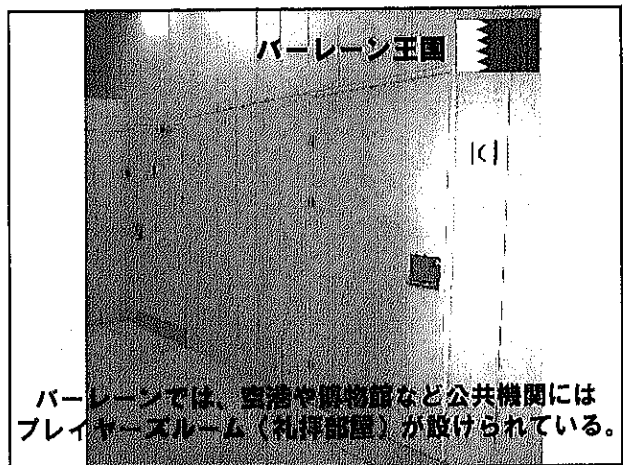
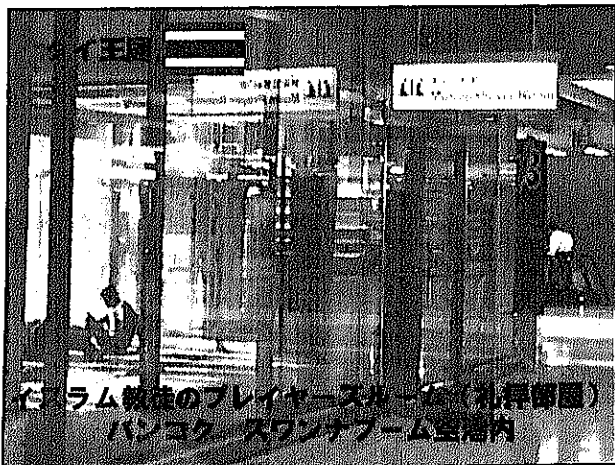
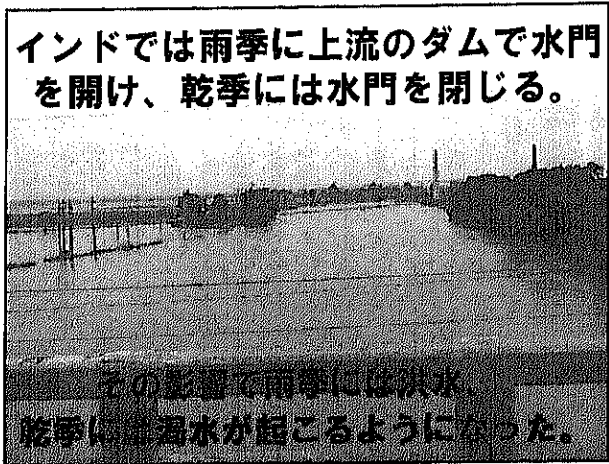
自由の橋から北朝鮮の国境方面を望む

ふたつの鉄橋のうち、片方は戦時中に北朝鮮兵の
侵入を防ぐために爆破されたままである。



Bangladesh 人民共和国

洪水で浸水したレンガ工場



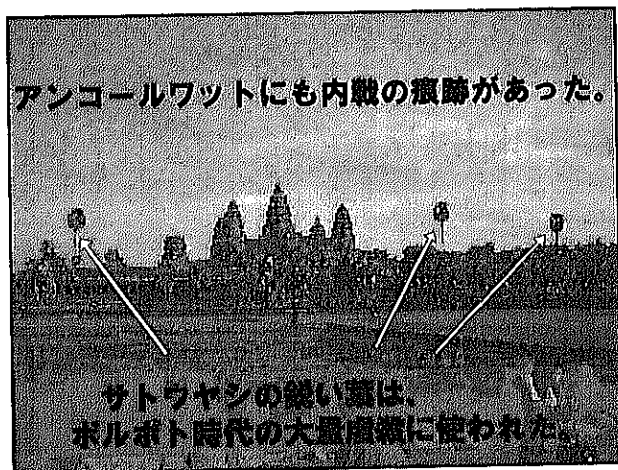


町の中には、地雷で
足を失った人の姿も見られた。

カンボジア王国



郊外の道筋に続く道。
中央の木の赤ペンキの両側は
地雷地雷立入禁止のマーク。



アンコールワットにも内戦の痕跡があった。

サトウヤシの鋭い葉は、
ポルポト時代の大量虐殺に使われた。



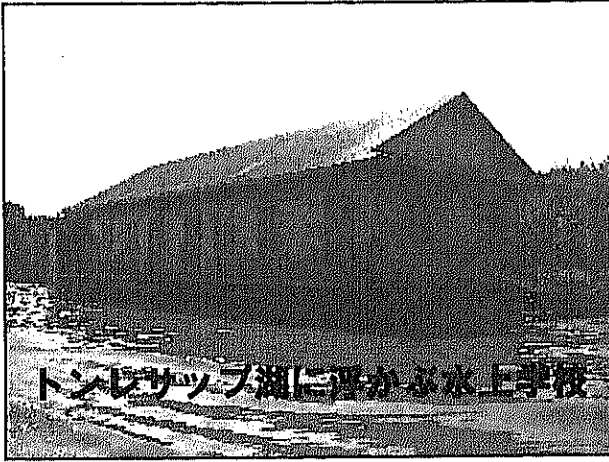
アンコールワットの柱にも
内戦時代の痕跡がある。



シェンリクワの街がどの看板
We No Longer Need Weapons
「武器はもういらぬ」



カンボジア王国
カンボジアの乗車定員は「乗れるだけ」。



トンレサップ湖に浮かぶ水上学校



トンレサップ湖に浮かぶ水上教会



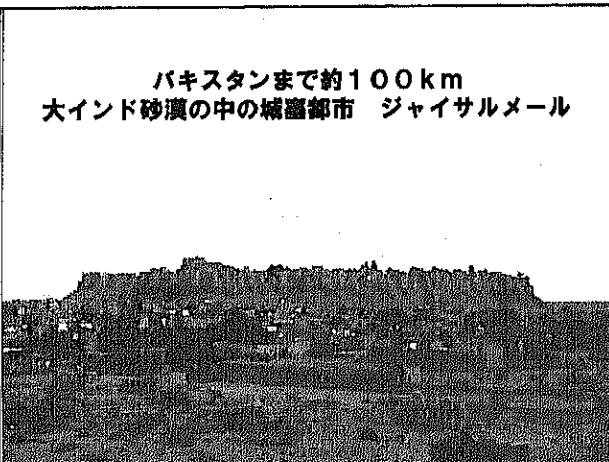
インド



デリーの都市には自動車、リキシャ、自転車など様々な乗り物が通る



ヒンドゥー教では牛が神様。街中で牛が通行を妨げても誰も文句を言う人はいない。



パキスタンまで約100km
大インド砂漠の中の城塞都市 ジャイサルメール



バングラデシュ



レールに踏まつかぬ泥を掘る



バスや電車の屋根には
無賃乗車の人に乗っている。



竹の支柱を何本も立てて床を支える。



カンボジア特別行政区 (中国)

「Halal」はイスラム教徒が安心して
食することができる方法で調理された肉



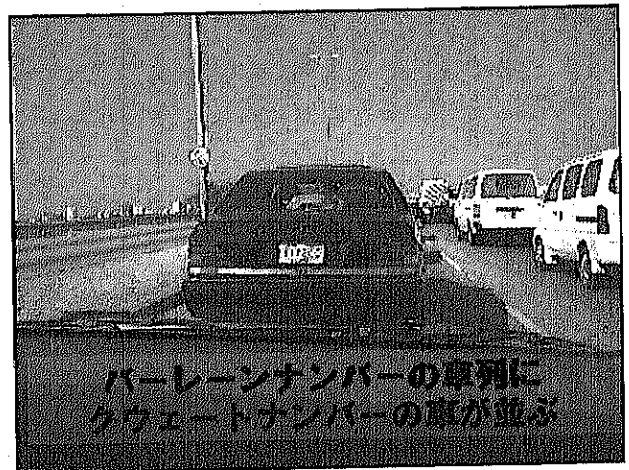
カンボジア王国

カンボジアではトヨタカムリが大人気!



バーレーン王国

サウジアラビアナンバー (左) と
バーレーンナンバー (右) の車が並ぶ



バーレーンナンバーの車列に
クウェートナンバーの車が並ぶ

